

---

# 夜明けの怪盗

三笠エマ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

夜明けの怪盗

### 【Nコード】

N1698V

### 【作者名】

三笠エマ

### 【あらすじ】

気の弱そうな少年「宮森凜夜」は世間を現代、最も騒がせる怪盗「怪盗オーブ」として怪盗業を営んでいる。そんな彼には依頼も仲間も集まるのだが、当然敵も集まってくる。特に彼の幼馴染の天才少女「河下望愛」は一番大変な敵だったりする…。そんな中で仲間（ほとんどが何かしらの珍しい特技を持っている）にちよつとだけ協力してもらいながら日々、望愛や警察の目を欺き、物を華麗に盗んでいく怪盗少年の小説

## プロローグ 怪盗の心得（前書き）

こんにちは、二作目を書く三笠エマです！三笠は中三の女子なのですが、なんか中三っぽくないですね。

ちなみに恋愛が一作目なのですが、今回は怪盗ものに挑戦しようと思いい、書いてみました。でもこれは実は考え付いたのは中二のころだったりします…。

## プロローグ 怪盗の心得

世の中にはたくさん秘密がある。裏社会という名のところにはマフィアとかやくざとか闇金とか…。他にももしかしたら星の数よりも多いたくさんの秘密が回っているんだ。秘密結社とか謎の犯罪組織とか、いろんなもののいろんな仕組みとかその会社独自の秘密とか。

でもそんなのいろんな人が少しだけかもしれないけど知っている。

「だとしたら実際に一番大きな謎は一体何？」もし、それを僕が聞かれたらこう答えるだろう。

「それは個人の謎。」と。それを知っている人が少ないほどその秘密は実は大きくなっていく。たとえば他の人には小さく見えようともその人には絶対に知られたくない秘密は大きいし、とても価値があると僕は思う。その人と仲良くなったり、その人の裏をつかむためにはね…、特にそれは怪盗のにとっては最も大きな秘密だ。

だって怪盗は正体を知られるということが一番のタブーなんだから。

## プロローグ 怪盗の心得（後書き）

続きを読んでいただくとありがたいです。では！

依頼 1 普通の中学生の朝（前書き）

なんか昨日投稿したと思っていたら…。投稿されていませんでした  
…ガーン。

## 依頼 1 普通の中学生の朝

「ふわあああつ…。」

僕はそついいながら目をこすつた。今は朝七時半、ここは僕が通う中学校の通学路。こんな風景には自分が普通の中学生なんだな、と思わせる作用があると思う。

「にしても昨日の『悪魔の血』も結構簡単だったなあ。まったく今の警察って本当に無能ばかりが多いんだから。」

警察は本当に無能。自分たちが犯罪者を越えられ裏をかい捕まえられると思ひ込んでおいて結局捕まえられない無能が多い。僕のとさだつてよく失敗しているくせに。

「…まったくスリルがないんだよなあ。つまらない。」  
そして僕は思わずため息をついたとき…

「おはようっ！どうしたの、ため息なんて付いちやって眠そうにしていることは多いけれどため息なんて珍しいね。」

わわっ、後ろにいつの間にか幼馴染の望愛がいた。望愛のやつ、いっつも僕を脅かそうとするんだから。はっきり言つて心臓に悪すぎる。それに眼鏡が顔から落ちかけた。それにしてもため息だけだといいんだけれどな…。その前の言葉は聞かれていたくない。

「お、おはよう、望愛。べつになにも悩んでないよ。ただ口から勝手に出ただけだからね。」

「そーっ？ならよかつた。」

どうやらその前の言葉は全く聞かれていなかったらしい。良かったよかつた。にしても僕ったら軽率だ…。言葉を思わず言いそうになるなんて…。『怪盗』失格だ…。そう思っていると望愛がため息をついた。

「どうしたの？ため息なんて。珍しいね。」

一体どうしたんだらう。いつも自信満々で常にどんな犯罪者でも私なら捕まえられると断言しているのに。あつ、そうそう望愛は実は

世間で言われる天才でまだ14歳なのにその観察力を見込まれて警察に入っている。これは本当に珍しいよね。しかし、僕のことに関するのと全くそれはなくなるけれど。

「実はね、今日も怪盗オーヴ、取り逃がしちゃったの。あいつ、何度現場に現れる癖に絶対につかまらないし……。なんか常に余裕の表情なのよね。ああ、もうイラつく、あいつにもだけれどあいつを捕まえられない自分にもっ！」

「そりゃあ、怪盗オーヴは捕まえられないよ。怪盗オーヴは常に自分の敵の「河下望愛」を見ているんだ。どこが弱点かだつてすぐわかるし、考えが浅いことだつて十分に知っている。第一、怪盗オーヴの正体が目の前の幼馴染だつて気づかない時点で失格だと僕は思う。」

そう、怪盗オーヴの正体は僕だ。でも絶対に気付かないとは思ってられどね。悪いけれど怪盗オーヴの知恵はただの天才少女なんかの何枚も上手なだから。



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1698v/>

---

夜明けの怪盗

2011年8月15日07時52分発行